

題字：石野 華鳳
(書家 小松市出身)

更生保護

小松能美

第19号

2025年(仲秋号)



酷暑は天災？ 犯罪は人災

会長 和田 慎司

井出能美市長が警察署より詐欺撲滅対策官に委嘱された。人災であるSNSを活用した騙しが溢れる今、市長さん自ら前面に立つ姿は誠に心強い。普通の生活を営んでいる一般市民にとり、治安が良い日本はどこへ行ったのか？と思うほど特殊詐欺は多角化悪質化した。受話器やスマホが鳴るたび恐怖感を覚える。

近ごろ最新技術AIを悪用したなりすまし事件、不意な住宅侵入や通り魔による傷害殺人事件が頻発しており、日本人の心の在り様や犯罪の性質(タチ)は明らかに悪化した。

私たちはそんな世情を受け更生保護や犯罪防止に邁進するため、私たちが持てる知識や行動力を日々高めてまいりましょう。

令和7年度もAI(人工知能)研修はじめ先取りしたテーマを共に学びます。更生保護活動に賛同してくれる方々団体と心でつながる逞しいネットワークを構築していこう。

気象変動は天災でもあり人災でもある。熱中症アラートが連発、線状降水帯発生による自然災害が深刻化しており、私たちも地域協力して命を守る行動が身についてきた。

警察当局も撲滅に注力しているが、詐欺警報を発出し地域あげて人災を防いでいくことが必要だと今の詐欺犯罪急増を憂いている。

令和7年度 保護区定期総会を開催

令和7年度の定期総会は、4月24日(木)寺井地区公民館で、例年より早めの開催となりました(出席保護司27名と委任状22通で総会は成立)。総会では、和田保護区会長の挨拶に続き、ご臨席された三角 元金沢保護観察所長、井出敏朗能美市長のご挨拶、小松市長代理が代読、川北町長からのメッセージが朗読されました。その後福島保護司の議長のもとで、令和6年度の事業報告、会計決算そして令和7年度の事業計画、会計予算案が提案されすべて承認されました。また、役員改選に伴い和田会長が再任されました。

新たな事業として、7月の社会を明るくする運動に合わせて実施してきたIR駅での啓発キャンペーンを管内の高等学校に直接出向いて高校生を対象に啓発を実施することとし、継続的に住民大会を開催する事業計画が承認されました。また、保護司の安定的な確保に向けた取り組みも重点目標として継続していきます。

これまでの保護区保護司会の歴史を守りながら、新たな視点での保護司活動に挑戦していきます。特に、近年の新たな特殊犯罪でもあるAIが悪用される場合の事例などを知ることで今後の保護観察の参考とするための特別研修も計画されました。

役員改選に伴い各部会長の異動もあり、新たな部会体制が整いました。今年も部会ごとに事業計画を展開し、保護司間の連携と協働の意識高揚を目指します。





三年振りに

金沢保護観察所
保護観察官
窪田 由紀子

小松能美保護区保護司会の皆様には平素から更生保護の諸活動に御尽力をいただきありがとうございます。三年振りに皆様とご一緒できることを心からうれしく思っております。

さて、私は絵本『おこだでませんように』が大好きです。よかれと思ってしたことが裏目に出て、学校や家でよく大人から怒られてしまう主人公の男の子が七夕の短冊に書いた「おこだでませんように〈おこられませんか〉」を、作者のくすのきしげのりさんが、「それは、まさに天に向けての祈りの言葉。子どもたち一人一人にその時々で揺れ動く心があり、どの子の心の中にも祈りのような思いがある。そんな子どもたちの心の動きや祈りのような思いに気づくことができる大人でありたい。」と述べておられます。更生保護の根本精神を見た思いがしました。

保護司の皆様には、不幸にして罪を犯した人たちと日々対峙され、また、精神的な居場所ともなってくださり、誠実な対応に改めて敬意を表します。引き続きご支援とご協力をお願いいたします。



『出会いに感謝』

チャリティ協力作家
山本 勇

この度、一径・出会いの軌跡—と題して、画集を発刊させていただきました。二十歳代後半から今日までの作品を眺めていますと色々なことが思い出されます。小・中学校の先生との出会いは、幼い私に小さな夢を与えました。美大受験に失敗した私は家庭の事情もあり夢を諦め失意を抱えながらサラリーマン生活を送っていました。恩師との再会、絵を描く仲間達、そして職場の理解・支援もあり再び絵を描き始めました。五十歳を迎え、意を決し、早期退社。絵画塾を開き絵を中心とした生活を始めました。同時に障害者支援施設陽光苑の皆さんと絵を描く機会を頂きました。利用者の皆さんは一人一人が個性的、いずれも心で受けとめて、心で表現する温かい画面です。「ふれあい・ぬくもり展」は共に喜びの場であり、出会いに感謝です。皆さんと過ごした日々は、絵画制作の貴重な畑でした。種を蒔き、花を咲かせ、実を採り、糧とする。私の絵はこの畑から生まれてきたようです。



小松能美保護区保護観察件数等／8月1日現在の増減比較数

単位(件)

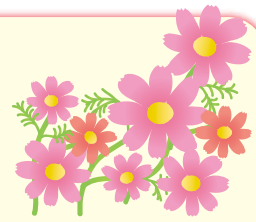
種 別	1号 家庭裁判所で保護観察処分を受けた者	2号 少年院から仮退院を許された者	3号 刑務所から仮釈放を許された者	4号 刑事裁判所で刑の執行を猶予され保護観察に付された者	生活環境調整 矯正施設に入所している者に関する生活環境の調整
令和6年	6	1	3	4	13
令和7年	4	3	3	6	15
増 減	-2	2	0	2	2

最近の保護観察件数等の動向

保護観察・生活環境調整とも事件数をみると昨年と大差はない。保護観察は男性13名、女性3名であるところ、生活環境調整は全員が男性である。保護観察・生活環境調整ともほとんど男性が占めている。(金沢保護観察所より)



第75回 社会を明るくする運動 小松能美地区住民大会



7月1日から全国的に第75回社会を明るくする運動の強調月間が始まりました。昨年に続き本年も住民大会を開催し、地域の住民に犯罪予防の重要性と更生保護を広く知ってもらう目的で保護区内の更生保護関係者を中心に2市1町を対象にした住民大会を7月4日(金)午後1時30分から石川県小松市團十郎芸術劇場うららで開催しました。

式典では、和田保護区保護司会長が開会にあたり大会開催の趣旨や更生保護に対する思いを述べ、総理大臣のビデオメッセージの動画が放映されました。続いて犯罪予防活動部会の徳山保護司が内閣総理大臣メッセージを朗読し、井出能美市長と小松市、川北町の代表の方と能美市、川北町の議会議長に伝達しました。

伝達の後、ご来賓の三角金沢保護観察所長、井出能美市長、田西川北町副町長より挨拶をいただき、小松市長の大会に寄せてのメッセージが朗読されました。

式典の終了後、本大会を記念して安宅住吉神社宮司の北村嘉章氏のご講演をいただきました。講師が関わった能登半島地震により被災を受けた神社の復興への対応や教育委員会に携わった経験で、自然の大切さや枯れてからの水には効果がないこと、学業は点数よりも人間性が重要などとお話されました。聴講の皆さまは、講師のお話にうなずきながら、感銘を受けた様子でした。

今回の大会は平日開催でもあり、教育関係者や一般の方の参加が厳しかったのですが更生保護関係者を中心に165名の参加を得ることができました。大会に参加された方々や更生保護に関わる方にとって意義ある大会となりました。こうした大会の開催



和田会長あいさつ



安宅住吉神社宮司の北村嘉章氏

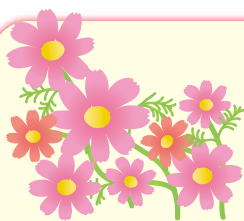
により社会を明るくする運動が広報され、更生保護への関心が高まることが期待されます。

旧小松監獄署の獄死者の墓の清掃に保護司会として初めて参加

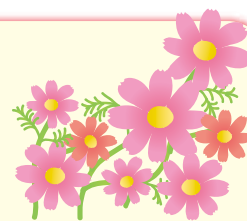
更生保護団体との連携事業として、小松地区更生保護女性会が長年行っている旧小松監獄署の獄死者のお墓の清掃作業に、小松能美保護区保護司会として和田会長が参加しました。

これまでは、更生保護女性会事業として行われてきましたが、保護司会としても参画し、更生保護団体との協力体制を強化していきます。清掃作業できれいになった墓前で、僧侶の読経の中、黙とうを捧げました。





第75回 社会を明るくする運動 高等学校啓発キャンペーン



寺井高等学校

能美支部 中田 桂子

毎年駅前で実施していたキャンペーンを、今年は初めて寺井高校の生徒玄関前で保護司及び能美地区更生保護女性会が行いました。とても明るい生徒会のみなさんに協力していただき、こちらも朝からとても元気が出ました。



小松大谷高等学校

小松支部南分区 片村 裕

事前に、高等学校での社会を明るくする運動の趣旨を説明してあったので、スムーズに校門前で登校の生徒に啓発グッズを手渡し犯罪や非行のない社会を作るための声掛けをすることが出来ました。小松地区更生保護女性会の方にも参加協力いただいたことは、本活動の力となりました。8時頃に、我々とは離れた所で一人の生徒がポツと立っており、尋ねたところ「僕は生徒会長です、毎日挨拶運動を自主的にしています」とのこと。当然、社明ジャケットを着用してもらいました。彼には感動し、かつ、感謝一杯です。小松大谷高等学校のみなさん！ありがとうございました。



小松工業高等学校

小松支部東分区 東木 宏充

地区担当の保護司、小松地区更生保護女性会の皆様とインターアクト部員の学生と啓発キャンペーンとして、学校の玄関前にておはようございますとお声かけをしながら社明啓発ティッシュを登校する生徒に手渡しました。生徒たちも、挨拶を返してくれ明るい校風にびっくりしました。女子生徒も多く、時代の移り変わりも感じた取り組みとなりました。



小松市立高等学校

小松支部中分区 徳山 知子

7月8日に小松市立高等学校で啓発キャンペーンを行いました。

メンバーは和田会長をはじめ保護司の方々、小松地区更生保護女性会の皆様も参加されました。

生徒たちは最初活気がなく心を開いてくれませんでした。生徒会の皆さんの参加で雰囲気が変わり、活発に挨拶してくれるようになり、始業前には大変盛り上がりしました。





第48回 有名作家チャリティ作品展



社会を明るくする運動の一環として、有名作家チャリティ作品展が、7月25日～28日まで金沢エムザ2階「エムザギャラリー」にて開催されました。

本運動の趣旨にご賛同いただいた県内の有名作家に作品をご寄贈いただき、作品は来場者の入札により、その売上金は罪を犯した人々の更生援助や犯罪予防活動に役立てられます。

今年は当保護区の協力作家である中田一於さんが「人間国宝」に認定されました。おめでとうございます。

県内有名作家の作品を一堂に鑑賞できるとあって、熱心に見入る来場者の姿が見られました。

ご寄付された地元作家の皆様、お世話された保護司有志の方々に、厚くお礼申し上げます。



【寄贈された方々】 (敬称略)

◆工芸の部

打田 幸生	三ツ井為吉	浅蔵五十吉
浮田 健剛	山中 国盛	高 権成
北村 鶴代	中田 一於	吉田 美統
北村 隆	北村 和義	田村 敬星
徳田八十吉	村中 暁美	北村 英昭
糠川 孝之	米田 和	山岸 大成
寺田ひかり		

◆絵画の部

八十山和代	山本 勇	田方 勇
北 長八	東 孝太郎	池岡 信
松村 芳明	西房 浩二	斉藤 敏明
阿部 正子	小西 明人	山崎 綾乃

◆書の部

都賀田久馬

私の生業 (なりわい)

ウレシヤス小松北陸電力ビル陶壁画制作 九谷妙須晃山窯

小松弁で喜びを表す地元方言に「うれっしゃー」と言う言葉を少し変え、ウレシヤス小松と命名されたそうで、ビル構想は北前船をモチーフとした建設であり、安宅出身でもある北電社長の地域に根ざす構想が伺えます。

一階のエントランス正面に壁画を配置、北前船を長年取り組まれておられる小松出身の陶芸家 北村隆先生がその任を受け当窯にて製作。最終的に五艘図案になり出船入船、沢山の方々が出入り賑わうようお願いを込めさせていただきました。本当の語源でもある図案も楽しみに。

土は、奈良薬師寺国宝東塔修復の折、譲り受けた千二百年前創建当時の基壇の土を混ぜ、横三千六百 縦千六百五十のサイズで造形し金箔、プラチナ箔にて加飾、絢爛豪華な陶壁でお迎えさせていただく運びになりました。

構想より一年、ようやく完成に漕ぎつけました。是非一度ご覧いただければ幸いです。

※「ウレシヤス小松」は、今年10月23日オープンします。



窯主 小松支部 東分区
東木 宏充



小松支部 南分区
久保 潤

新任のごあいさつ (令和7年6月新任)

この度、保護司として委嘱をうけ、小松能美に配属されました、久保潤です。

地域活動の中で、保護司の存在は知っていましたが、私には無縁の世界だと思っておりまして、声を掛けて頂いた時には、『僕なんかが…』と思いましたが、公私ともにお世話になっている方からお勧め頂き、お引き受けすることになりました。

専門的な事や実際の活動については、何も分かりませんが、『保護司とは』、『犯罪とは』、『善と悪とは』など、色々な事を深く追求し、この活動を通して少しでも社会のお役に立てればと思います。

退任 小松支部 北分区 押野 瑞代 (令和7年6月退任)

小松支部だより

48回目を迎える「有名作家チャリティ作品展」に、当保護区小松支部からは、17名の作家の方に毎年、ご協力を頂いています。5～6月にかけて担当保護司がそれぞれの作家さんにご依頼し、作品をいただいています。

そうした中、7月に「小松市の九谷焼作家中田一於さんが人間国宝に認定・・・」の報道が駆け巡り、市・県民はもとより保護司会にとっても大きな朗報でした。ご本人は、有名作家チャリティ作品展に39年連続で出展して、中田一於さんの作品ただいており、我々にも馴染みの深い作家さんだからです。今年も当然「釉裏銀彩」の名品でした。先生の益々のご活躍を祈念しております。

中田さんは、小松支部のチャリティ協力作家として2001年に人間国宝に認定された吉田美統さんに続き二人目となります。

(小松支部庶務 片村 裕)



能美支部だより

第75回社会を明るくする運動能美支部推進委員会を6月4日に開催し、取組み等を話し合いました。社会を明るくする運動小松能美地区住民大会では、総理大臣メッセージ伝達があり、記念講演で安宅住吉神社宮司の北村さんのお話を聞くことができました。

例年どおり支部内の15の小学校中学校を各地域の更生保護女性会会員の方と保護司で訪問し、校長先生から日常の学校の様子などをお話いただき、更生保護女性会の会員さんから登下校の見守りの様子などの話しをしていただきました。

保護区の事業方針により、これまで実施してきたIR能美根上駅での啓発キャンペーンに変わり、県立寺井高等学校で社明啓発キャンペーンを登校時間帯に実施することになりました。事前に、高等学校と連絡を取り実施に向けた打合せをしてあったので、当日は、校長先生、生徒会の役員の皆さんに参加していただき、更生保護女性会、保護司の皆さんと一緒に啓発用ティッシュ配りをしました。ベストも似合っていました。

また、能美支部として、例年社明月間中に寺井高等学校を訪問し、校長先生との懇談をする機会を設けています。今年も7月23日に、支部役員6名で訪問しました。

校長先生との懇談では、保護司会が初めて取り組んだ高等学校での啓発キャンペーンについて、好評との評価をいただくことができました。そして、私たちが保護司ということもあり校長先生からは、少子化による高等学校を取り巻く現状について、教育の難しさ、生徒指導の難しさなどを聞くことができました。また、非行やいじめに対する対応には、状況を把握し、厳格に対処していることもわかりました。特殊詐欺事件に巻き込まれる年代でもあり、将来的に危惧していることについて共有することができ、有意義な懇談ができました。(能美支部庶務 南 裕子)

編集後記

いやー今年の夏も暑かった、ほんとに異常気象やな。
今から迎える冬、どうか雪にならないように願っとるわ。
なんでこんなになるのか、自分にはわからない。
今年新たな活動で、各高校での啓発運動を行なった。
元気な高校生の姿を見ることができ、良かったと思う。
今後、この若者達と共に我々も考え、異常気象を解決して
住みやすい社会になっていきたいな。(中田)

教育現場からの声



能美市教育委員会
教育長

横関 達人

小松能美保護司会の皆様には、更生保護はもとより、犯罪や非行のない明るい社会づくりに向けて様々な啓発活動にご尽力され、心より感謝申し上げます。

現代社会は、多様な価値観が共存する社会です。それゆえ、現在は混迷を極めており、社会が抱える問題は複雑化する一方であると感じています。このような時代だからこそ、多くの関係機関が連携して、子供たちに関わる諸問題に対処していかなければならないと考えています。

能美市では学校運営協議会と連携することで、コミュニティ・スクールとしての成果が現れ始めていますが、地域がさらに一丸となるためにも貴会との連携が不可欠であると考えています。貴会の崇高な理念と活動のもとで、子供たちの健やかな成長を促し見守れたら幸いです。未来を担う子供たちの成長を共に願い、今後ともご協力をお願いいたします。

最後に、貴会の皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。



※お問い合わせ 小松能美保護区保護司会事務局
TEL 0761-46-5105 FAX 0761-46-5108
E-mail hogoshikai@aqua.plala.or.jp
URL <http://hogoshikai.org>

発行日 令和7年9月30日
発行 小松能美保護区保護司会 広報部会
印刷 マルト株式会社



この印刷物は
Scope1、2のCO₂排出量
を実質ゼロとした工場で
印刷されています。